

オンライン複言語学習の実践と教材化の可能性

—Padlet を活用して—

大前智美^{*1}・岩居弘樹^{*1}

Email: omae.tomomi.cmc@osaka-u.ac.jp

^{*1}: 大阪大学 D3 センター

◎Key Words 複言語学習, ICT 支援外国語学習, インタラクティブな学び

1. はじめに

現代の日本は外国からの観光客や労働者の増加により、多言語多文化社会へと移行し、これまで以上に多言語・異文化への理解が求められている。そこで発表者は、子どもたちがさまざまな言語にふれ、世界の人々や文化に関心を持ち、多言語多文化社会を生きていくための力を育むことを目的として、2018 年から小学生を対象とした複言語学習「世界の言葉プロジェクト」を実施している。

小学生向けの複言語学習の授業では、各回 1 つの言語に焦点を当て、母語話者である留学生を講師として招いて、挨拶や自己紹介などの表現を学び、その国・地域の地理や文化、日本とのつながりについて紹介する。また、学習した言葉を聞こえた通りに声に出して練習し、その内容をビデオ撮影して Padlet に学習成果をアップする。

本発表では、2024 年度に岡山市立芥子山小学校で実施した複言語学習の実践を紹介する。この授業は Zoom によるオンラインでの授業が主であり、これまでの実践では、講師の声が教室では聞き取りにくいこと、また教室での児童の発音が講師側には聞こえにくく、児童一人一人の発音を確認できないことといった課題があった。そこで 2024 年度は Padlet の Sandbox¹ を授業中の教材提示などの支援ツールとして使用し、授業後にはその素材を教材化し提供するという流れで、児童たちの復習に活用した。

オンライン複言語学習の授業における Padlet や Sandbox の活用方法、教材化の可能性に言及するとともに、複言語学習を通して外国の言葉や文字・文化に対する児童たちの気づきについて、アンケート調査をもとに考察する。

2. 「世界の言葉プロジェクト」の実践

2.1 これまでの実践概要と課題

2022 年度より岡山市立芥子山小学校 6 年生を対象とした複言語学習の授業を実施している。芥子山小学校 6 年生は 4 クラス 140 名程度の規模であり、2 クラスずつ 2 グループに分けて授業を行ってきた。初回は現地へ赴き、対面でドイツ語の授業を実施し、以降はすべて Zoom によるオンライン授業となった。大阪大学側は母語話者である留学生と筆者らコーディネータ 2 名が同じ時間に並行して授業を行った。

2022 年度は 7 回 7 言語（ドイツ語・韓国語・中国語・インドネシア語・ロシア語・ペルシア語・タイ語）、2023 年度は 10 回 12 言語（ドイツ語・韓国語・中国語・インドネシア語・ペルシア語・フランス語・カンボジア語・アラ

ビア語・タイ語・ポルトガル語・ベトナム語・ロシア語）の授業を行った。

2022 年度、2023 年度の授業では、小学校の教員用 Chromebook を教室の大型モニターに接続し、WEB カメラとワイヤレスマイクを用いて授業を行っていた。しかし、小学校内の Wi-Fi の不安定さや隣の教室とのハウリングの問題、児童の声をひろうことが難しいなど課題が明らかになった。そのため、2023 年度には、大阪大学から各言語のオンライン教材やお手本動画を共有して事後学習もできるようにし、授業後に児童たちが学習成果をビデオに記録・共有し、講師たちが発音の確認を行うことで学習を補った。



図1 音声つきオンライン教材

複言語学習の実践においては、耳で聞いた音を発音しながら身につけていくことを目指していた。しかし、大人数クラスでのオンライン授業では教室全体の反応が見えにくいため、児童がお手本となる音声を聞き取れているかわからず、対面授業のような発音のサポートをすることができないという課題が残った。

2.2 2024 年度の実践

2024 年度は 1 学年 3 クラスを 2 グループに分けて、初回は対面によるドイツ語授業、2 回目以降は Zoom によるオンライン形式で表 1 のような流れで授業を行った。各言語の講師はこれまでと同じく大阪大学の留学生や修士に協力を仰ぎ、発表者らがコーディネータとして参加した。

2024 年度は、授業の際のネットワーク環境を安定させる

¹ Sandbox : <https://padlet.com/site/sandbox>

ため、大阪大学から Zoom 接続用に LTE 版の iPad を貸し出した。さらに、児童たちの Chromebook はアクセス制限により、ビデオ撮影や復習用の教材閲覧ができないため、各クラス 5 台ずつの iPad を貸し出し、復習用のオンライン教材に自由にアクセスできるようにした。

表1 2024 年度芥子山小学校での流れ

日付	グループ1	グループ2
9月20日	ドイツ語 (体育館で対面授業)	
10月2日	モンゴル語	ウクライナ語
10月9日	ウクライナ語	モンゴル語
10月16日	カンボジア語	アラビア語
10月23日	アラビア語	カンボジア語
11月6日	インドネシア語	韓国語
11月13日	韓国語	インドネシア語
11月27日	ポルトガル語	イタリア語
12月4日	イタリア語	ポルトガル語
1月15日	韓国語, カンボジア語, モンゴル語, アラビア語の交流会	
1月29日	イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, ポルトガル語の交流会	

また大きな変更点として、「文字」の導入が挙げられる。複言語学習の授業は、主に音を聞いてそのままの音を発音練習しながら覚えること、学習した内容をビデオで記録・共有し、講師である留学生と交流することを念頭に行ってきた。しかし、先に述べたように、オンライン授業では音を伝えるという点で様々な障害があったため、2024年度の授業からは、音だけでなく外国語の文字やスペルを一緒に紹介し、音と文字を合わせて学習した。児童たちは外国語の文字と聞こえた通りの音を自分で表すことのできる文字 (カタカナやアルファベットなど) を使ってノートに記す活動を加えた。

2.3 Sandbox の活用と教材化

授業で文字を紹介するにあたって、Padlet の Sandbox を利用することにした。Sandbox はオンラインホワイトボードであり、カード型のホワイトボードを複数ページ用意することができ、そこに文字、音声、画像、動画などを挿入することが可能である。



図2 Sandbox での音声・画像つき資料

あらかじめ用意しておいた Sandbox での授業資料を画面共有した状態で、授業中の児童たちとのやりとりをもとにその場で追加情報を載せたり、iPad などから手書きで

情報を付加することができる。授業時の児童たちの発音や興味関心に基づいて、授業資料をインタラクティブに編集していくことができた。

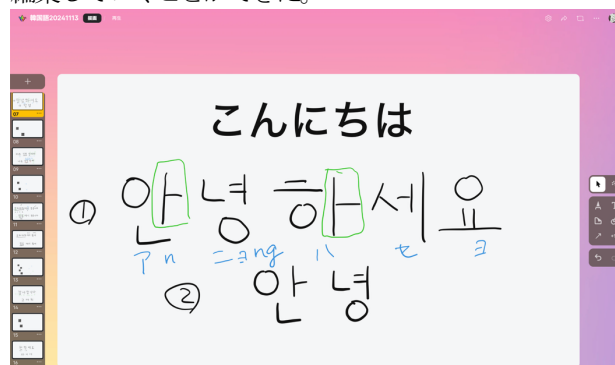


図3 Sandbox に手書きで文字を解説

またアラビア語やカンボジア語などは授業の際に Sandbox を画面共有した状態で、講師が iPad から手書き入力をするすることで、どのように文字を書いているのかを見ながら、音と文字を学習した。

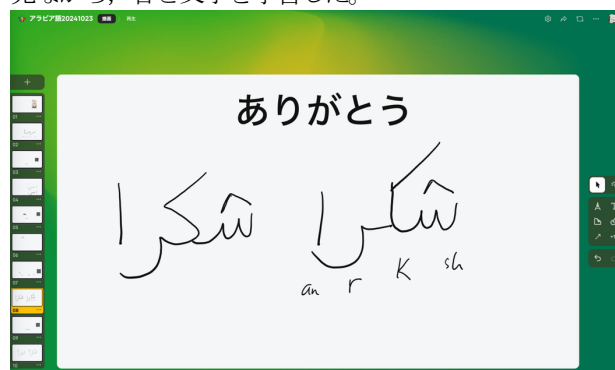


図4 アラビア語の手書き入力

音だけでなく外国語の文字や単語のスペルも同時に学ぶことで、オンラインでは伝わりづらかった細かな音の違いや文法に気づき、学習が深まるケースがあった。たとえば、イタリア語で「～が好きです」という表現を学習していると冠詞の音・形が違うことに気づき、そこから自分たちの好きなものの名詞の性が何か、どのような冠詞をつけるのかなど、文法にも興味を示し講師に質問する様子が見られた。

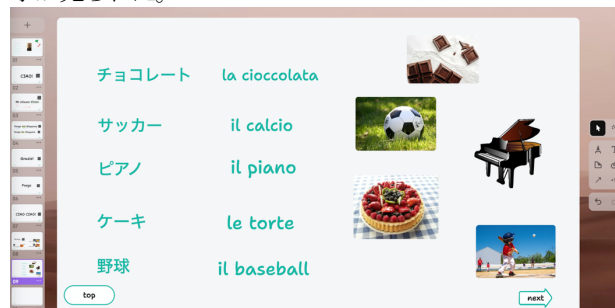


図5 イタリア語の名詞の性を紹介

このように、2024年度の授業では、児童たちとのやりとりを通して、Sandbox 上に文字や音に関する補足や追加情報を追加しながら授業を行った。そして、授業終了後には Sandbox のトップページにその日に学習した内容のお手本動画と各スライドへのリンクをつけて復習用教材と

して児童たちに共有した。これを参考に児童たちは復習し、自分たちの話す様子をビデオ撮影して Padlet に提出するという活動を行った。



図6 Sandbox にリンク (メニュー) を追加

3. 授業のふりかえり

3.1 授業終了後の児童たちの活動

複言語学習の授業用ポータルページとして Padlet を 1 つ用意しており、そこにお手本動画を含む Sandbox のリンク、児童たちのビデオや授業時に記録したノートの画像を提出してもらうページを用意している。

2022 年度以降、任意で毎回の学習内容を振り返るビデオを撮る活動を含めてきたが、2024 年度は大学側から LTE 版の iPad を貸し出し教室に設置したことで、児童たちの振り返り活動が活発になり、全ての言語に対して、ほぼ全ての児童がビデオを提出した。また、提出されたビデオを講師である留学生が確認し、コメントをつけることで交流を深めた。



図7 ビデオの提出と留学生からのコメント

さらに 2024 年度は授業中に文字を紹介しながら、音と文字を含めた学習を行ったため、児童たちが授業中に記録したり、授業終了後に復習でノートをまとめたものを提出した。聞いた音をカタカナ、ひらがな、アルファベットなどを使い、どんなふうに聞こえたのかをメモすると同時に、授業中に教わった文字を丁寧に記して学習した様子が窺えた。これらのノートも講師がチェックし、コメントを返し、児童たちの学びを支援した。

以上のようにオンラインによる複言語学習では、授業中に Sandbox を使ってインタラクティブに教材を作り、授業後には Sandbox の資料を教材化し提示、児童たちと留学生は Padlet 上でビデオや画像を用いて非同期でのオンライン交流を図ることができた。

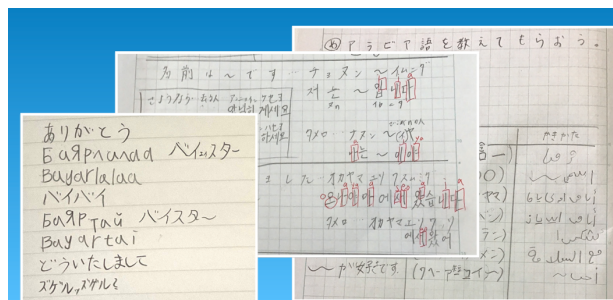


図8 児童たちのノート

3.2 アンケートから見る児童たちの意識の変化

複言語学習のプログラム終了後に、児童たちを対象に、主に 5 件法でアンケートを実施した。

2023 年度と 2024 年度を比較して「複言語学習は好き？」という質問に対して、2023 年度は 56.5%，2024 年度は 67.3%の児童が好きだと回答した。また「複言語学習は楽しかった？」という質問に対しても 2023 年度は 64.5%，2024 年度は 76.5%が楽しかったと回答している。さらに、「高校や大学で英語以外の言葉を学べることが楽しみ」と回答した児童が約半数おり、いろいろな言語に触れる機会の重要性を示している。

2024 年度から文字を使った学習を取り入れたことで、外国語の文字を面白い、文字があることで言葉を覚えるのに役に立ったという意見が約 70%であった。

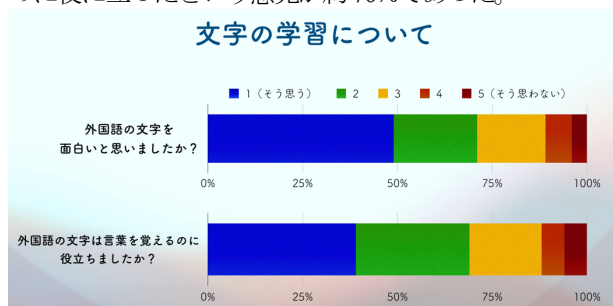


図9 文字学習に対する児童たちの回答

2024 年度、Padlet を用いて非同期での留学生との交流があったことで、児童たちは講師である留学生からコメントがあると嬉しい、もっと勉強したいと感じ、外国語への学習意欲を高めていることがわかった。

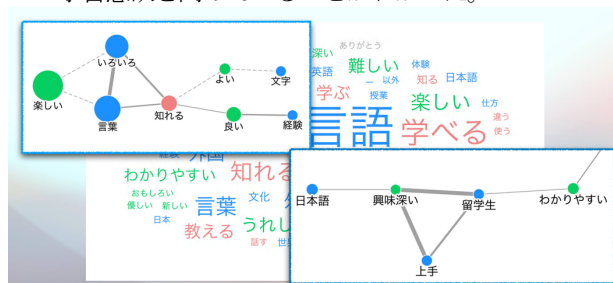


図10 児童たちのコメントに基づく共起ネットワーク

アンケートの自由記述からは、児童たちが複言語学習を好意的に受け止め、いろいろな言語や文化に興味を示すきっかけとなっていることがわかる。

3.3 オンライン授業環境と課題

すでに述べたとおり、2023 年度には校内ネットワークと

学校の Chromebook にワイヤレスマイクで Zoom 接続した環境で授業を行っていた。2024 年度は接続や音声の安定性を期待し、LTE 版の iPad で Zoom に接続し授業を実施した。その結果、接続が安定し、授業中に接続が途切れたり、音が伝わりづらいということがなくなった。また、小学校側の準備にかかる時間も短縮され、お互いに負担が軽減された。

児童たちが複言語学習の教材にいつでもアクセスできるようにと大学から各クラスに 5 台ずつ LTE 版の iPad を貸し出した。これを用いて、お手本ビデオの確認、練習成果ビデオの撮影と提出、ノートの撮影・提出を行なった。ビデオやノートの提出が活発に行われ、留学生がコメントをすることで、コメントを見た児童のうち 73%の児童が「言葉をもっと勉強したいと思った」と回答している。留学生との交流が複言語学習への意欲や関心を高めたことを示している。

その一方で、児童たち自身の Chromebook では、アクセス制限により教材の Padlet にアクセスできず、自宅などで学習したいときに自由に学習できる環境にはならなかった点は課題として残った。

4. おわりに

これまでの複言語学習は音を聞いて真似るということに重点を置いてきた。しかし、大人数クラスを対象にしたオンライン授業では、音声をめぐる様々な問題が生じることが明らかになった。そこで 2024 年度は文字を積極的に取り入れ、Sandbox を活用して学習内容の共有や児童の声に応じた内容の編集を行いながら授業を実施した。また Sandbox を復習用の教材として提示することでオンライン授業での音声に関する課題を解決する可能性を見出した。また児童たちのビデオやノートに留学生が日本語でコメントを返し、授業時間以外での交流を行うにあたって Padlet がうまく機能したといえる。

今後は複言語学習の活動を広めるために、現場(教室)主導で授業を実践するためのノウハウや児童たちが自主的にさまざまな言語に触れられるようなオンライン教材の提供についても検討を進めたい。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP 21H00543 の助成を受けたものです。岡山市立芥子山小学校高山祐子校長ならびに 2024 年度の 6 年担当の先生方にお礼申し上げます。

参考文献

- (1) 岩居弘樹, 大前智美: “小学校向けオンライン「複言語学習」の可能性と課題—大規模校での実践を通して—”, 2023 PC カンファレンス論文集, pp.207-210 (2023)
- (2) 岩居弘樹, 大前智美: “「世界の言葉プロジェクト」—学習成果ビデオから見た発音指導の課題—”, 2024 PC カンファレンス論文集, pp.236-239 (2024)
- (3) 岩居弘樹, 大前智美: “小学生向け複言語学習「世界の言葉プロジェクト」—6 年間の取り組みと今後の課題—”, 複言語・多言語教育研究, pp.3-19 (2025)
- (4) 大前智美, 岩居弘樹: “「複言語学習のススメ」による学び方の学び”, 2023 PC カンファレンス論文集, pp.243-245 (2023).

- (5) 大阪大学市民講座 世界の言葉プロジェクト:
<https://bit.ly/3R1giZF>